



山形に芸術大学があることが財産 「活力ある山形県づくり」には連携が鍵

地域と関わりながら、クリエイティブな力で社会の課題を見い出せる若者を多く輩出している東北芸術工科大学の中山ダイスケ学長をゲストに迎え、地域と若者の交流・連携についてお話をしました。



地域を活性化してくれる学生たちの活躍に期待。
希望が膨らみます。

山形のフィールド全部が学生の教材。
芸術やデザインを地域に学び活かします。

東北芸術工科大学 学長
中山 ダイスケさん
1968年 香川県生まれ。アートディレクター、現代美術家、株式会社daicon代表取締役。ジュース「山形代表」のデザインをはじめ、行政機関や地域音楽・スポーツ団体との連携プロジェクトなど、「地域のデザイン」活動も活発に展開。

山形県知事
吉村 美栄子

国際的なイベントが 数多かった2018年を 振り返って

知事 県民の皆さん、あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います。

司会 昨年は、国際的なイベントが目白押しでしたね。

知事 2月に、東北初の国連世界観光会議を本県で開催しました。「雪と文化」を活かしたツーリズムの可能性について議論し、視察やツアーを行いました。

5月には、インターナショナル・ワイン・チャレンジ2018「SAKE部門」の審査会が、これも東北で初めて本県で開催されました。県産酒は、9部門中3部門で最高位のトロフィーを獲得、17銘柄で金メダルを受賞しました。「日本一美酒県山形」を世界に発信できたと思っております。

同じ5月、本県が申請していた「山寺と紅花」をテーマとしたストーリーが「日本遺産」に認定されました。

8月には、これまで経験したことのない豪雨に2回も見舞われ、大きな被害が発生しました。そのため、政府に対し、災害復旧事業について緊急要望を行いました。

9月に、「つや姫」に続く期待の新品種「雪若丸」が本格デビューしました。ぜひ多くの方に味わっていただきたいと思っております。

11月には、「全国農業担い手サミット」が開催されました。皇太子殿下の御臨席をいただき、全国から約2100名の皆さんをお迎えすることができました。

司会 県内外、海外からたくさんの方々が来県し、交流が図られると山形が元気になりますね。



知事 観光誘客や移住者を増やすことなど、国内外との交流拡大やイノベーションなどにより経済力を高められると思います。昨年の秋から今年2月までは、台湾の国際定期チャーター便が往復144便、県内2空港に就航しています。さらに、産業振興と若者の定着にも取り組んでいます。今後も本県の価値を高め続けて、「やまがた創生」を進めることで魅力ある山形県をつくり、さらなる発展を目指したいと考えております。

司会 「若者」という言葉が出ましたが、若者といえば中山学長です。中山学長は、平成19年に東北芸術工科大学のデザイン工学部教授に就任され、平成30年4月からは学長として大学をけん引していらっしゃいます。皆さんご存じの「山形代表」や「おいしい山形空港」、「おいしい庄内空港」のマークなどをデザインされました。
知事 実は、山形県が力を入れて、いる「森林ノミクス」のロゴマークも、中山学長の指揮指導のもとで、学生さんから考案していただいたものです。知名度抜群の中山学長のような方がいらつしやるということと自身が、本県の財産だと思っております。

